

授業概要

ミクロ経済学とは、経済の仕組みを、消費者、企業といった経済活動を行う最小単位から眺め、その背後に潜むメカニズムを数学的に解明するものです。

「ミクロ経済学」の授業では、一般的なミクロ経済学の内容の中で、誰もがビジネスに携わっていく中で活き活き使える「ものの見方・考え方」に焦点を当てて丁寧に講義します。

数学の「微分」は用いずに、需要曲線や供給曲線などグラフを用いて視覚的に分かりやすく説明し、取り扱うテーマもゲーム理論まで広げて講義します。ミクロ経済学の広さと有用さが伝わるように講義します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（ミクロ経済学を楽しむ方法）
第 2 回	市場経済（市場の機能による最適資源配分）
第 3 回	需要と供給（市場メカニズムを理解するための分析道具）
第 4 回	価格と需要（経済全体の需要曲線を求める）
第 5 回	需要と効用（家計の効用最大化行動から需要曲線を求める）
第 6 回	価格と供給（各企業の個別供給曲線から経済全体の供給曲線を求める）
第 7 回	供給と費用（総費用、固定費用、可変費用、平均費用、限界費用を理解する）
第 8 回	供給と利潤（企業の利潤最大化行動からその企業の個別供給曲線を求める）
第 9 回	完全競争と資源配分（完全競争市場が最適資源配分をもたらすための条件）
第 10 回	余剰分析（政府の規制や課税による市場への介入が社会的総余剰へ与える影響）
第 11 回	独占（独占企業の利潤最大化によって過小供給を招き、社会的総余剰が損失する）
第 12 回	寡占（ゲーム理論を用いて、寡占市場における戦略的相互依存関係を分析する）
第 13 回	市場の失敗（市場が最適資源配分をもたらさない場合について考える）
第 14 回	ミクロ経済学と日本経済（身近な経済問題を経済学的な発想で分析する）
第 15 回	まとめ（授業内容の確認）数学とミクロ経済（これまで習ったことを数学的に表現する）
第 16 回	テスト（筆記試験）

到達目標

- ・ 需要曲線と供給曲線、価格弾力性について理解し説明することができる。
- ・ 消費者余剰と生産者余剰を理解し、均衡価格について説明できる。
- ・ 独占企業の利潤最大化によって社会的総余剰が損失することについて説明できる。
- ・ 寡占市場や市場の失敗について、ゲーム理論の内容を理解し、戦略的相互依存関係を分析できる。

履修上の注意

アドバンスドなミクロ経済学は、主に、微分概念を用いて限界分析を行う学問である。「ミクロ経済学」の授業では、微分を用いずに説明するが、「数学（解析基礎）」を履修済み（履修中）の学生は「ミクロ経済学」の授業のどの部分に微分の考え方が使われているかについて思いを巡らしてほしい。

予習・復習

復習に重きをおいていただきたい。授業内演習で取り上げた問題を学期末試験までに 3 回は解き直してほしい。1 回目は、その日の授業後に、2 回目は、5 回分授業が進んだところで過去 5 回分を、3 回目は最終回の授業後に全ての演習問題を、解き直してもらいたい。

評価方法

学期末試験：55%、授業内小テストと演習：45%

テキスト

- ・ 教科書名：入門経済学
- ・ 著 者 名：飯田幸裕・岩田幸訓
- ・ 出版社名：創成社
- ・ 出 版 年（ISBN）978-4-7944-3172-1